

決済・商流情報連携（金融EDI連携）基盤整備委員会

第2回議事録

決済・商流情報連携（金融EDI連携）基盤整備委員会

第2回 議事次第

日時：平成30年7月19日（木）14：00～15：35

場所：経済産業省別館 944共用会議室

1. 開会

- (1) 中小企業庁挨拶
- (2) 委員長挨拶

2. 事業進捗の報告

- (1) 事業の全体スケジュール
- (2) 部会等実施状況の報告

3. 審議事項

- (1) モデルプロジェクト採択報告

4. 閉会

【決定事項・内容】

- ✓ 幹事法人「株式会社イークラフトマン」「株式会社スマイルワークス」「株式会社グローバルワイズ」「株式会社ミライコミュニケーションネットワーク」が提案する4件のモデルプロジェクトを採択することで承認頂いた
- ✓ 部会等実施状況の報告内容について承認頂いた
- ✓ 次回開催は11月頃に開催予定

以下、詳細は【議事内容】参照

【配付資料】

資料1：議事次第

資料2：第2回決済・商流情報連携（金融EDI連携）基盤整備委員会 進行資料

資料3：決済・商流情報連携（金融EDI連携）基盤整備委員会 委員名簿

資料4：企業間取引の生産性向上セミナー（東京会場版） 説明資料

資料5：アンケートフォーマット（東京会場版）

資料6：モデルプロジェクトの概要

参考配布資料：共同利用システム接続仕様書

【議事内容】

1. 開会

(1) 中小企業庁挨拶 小池 明 課長補佐

中小企業庁の小池です。本日はお忙しい中お集まり頂きありがとうございます。本日の整備委員会ではまず一つ目として5つの組織から応募がございましたが、専門家の皆さまに集まって頂き審査した結果があがってきましてので、この場で採択頂きたいということ。二つ目は採択プロジェクトを早急に立上げキックオフをしていきたい、普及についても議論を開始したいということでご報告する予定です。最後に、今後事業を進めていくうえで事業終了後普及を見据えて引き続き関係者の皆さまにはご協力いただきたいと思っており、その中で特に金融機関の皆さまには今回の商流と金流の連携という意味で今後ご協力頂くことになると思っておりますので引き続きよろしくお願ひできればと思っております。本日もよろしくお願ひ致します。

(2) 委員長挨拶

皆さんこんにちは。お暑い中お集まりを頂きありがとうございます。タイムリーな話なのですが、数日前にとある問屋さんと話をした際に、電話で注文を受けて発送したところ、この暑さのせいか、注文数と発送先を間違えて、いわゆる誤発送してしまったという話を聞きました。EDIを導入されていればこのようなミスも防げたかもしれないと思ひ、4月から中小企業共通EDIが公開されているということと、今後は商流だけではなく金流の部分も繋がっていくので是非EDIを使ってもらいたいという話と、今後は、確実にデータで繋がっていくビジネスをやっていかなければならないのではないかと話をさせて頂きました。EDIは、中小企業における作業の改善、働き方の改革にも繋がるであろうことだと考えております。さまざまなアイデアや工夫が、さらにEDIの可能性を高めてくれるとも思っています。

現代の企業社会・経済がデータエコノミーと呼ばれる時代となってきた中ではデータを繋いでいくことによりデータという宝の山がどんどん増えていくと考えています。その結果、企業側が様々にアイデアを活かしビジネスチャンスにする、自社の強みにしていく、働き方の改革につなげていくなど、さまざまな可能性を秘めているものではないかと思っております。

決済商流情報のEDI化を確実に進めることにより、多くの中小企業の成果に繋がひ、ひいては一国経済の成長発展にも繋がっていくという意味で本事業は大変重要な役割をもったプロジェクトになるのではないかと思うとともに、大変期待しています。是非委員の皆さま方と一緒に良い成果を出していけるように思っているため本日もどうぞよろしくお願ひ致します。

2. 事業進捗の報告

(1) 事業の全体スケジュール

(2) 部会等実施状況の報告

※「資料2：第2回決済・商流情報連携（金融 EDI 連携）基盤整備委員会 進行資料」に基づき、事務局より説明。

[質疑応答/意見]

アンケート結果を踏まえた意見

○委員 A

資料2 P.31 および P.34 に関して、効果額でコスト基準を推測するという説明があったが、説明に少し無理があるのではないか。結果として出てきている価格帯（5万円～10万円）を月額で払うユーザはほとんど存在せず、自身の感覚からするとひとつの目安が3千円程度。これぐらいの価値がある取組みに対して、一般的にどの程度の料金をユーザが支払っているのか、別の情報も収集し読み替えるということをするれば使えるかもしれないと感じた。せっかくこのような結果が出てきたので、もう少し知恵を絞ればより良いものになると思い申し上げた。

○岡田委員長

仰る通り、実際のベンダーが提供しているサービス金額はここまで高額のものはいまだにあまり聞かない。この辺りはアンケートの聞き方に問題があったのかもしれないが、今後データの使い方については少し検討させて頂く。

○委員 B

ユーザは EDI だけを導入したいという意思決定をすることはほぼない。取引先企業との関係や既に使用しているアプリとの関連を踏まえて意思決定するものだと思う。それを前提として普及を考えていく必要があるだろう。

○委員 A

「現在利用しているパッケージベンダーが対応すれば利用したい」という声もかなり多いという結果が出ている。どこに対してアプローチすべきか絞った方が普及につながるのではないか。つまり、市場でリードしているベンダーが対応しているとそれ以外のベンダーが対応するということもあると思う。

CSAJ でも公募について説明会を実施したが今回は見送られたベンダーが幾つかあると認識している。パッケージベンダーの場合、改修するとなると時間がかかる。現在、既に年末年始にリリースを予定しているソフトウェア改修は佳境に入っており、これから開発スケジュールを変更し対応するというのは現実的ではない。であれば来年の開発スケジュールに入れてもらえるようにそのような働きかけ方をして頂ければと思う。

○岡田委員長

普及調査部会に向けて3点申し上げたい。1点目は問4と問8で商流 EDI と ZEDI への質問に対して、「魅力的だが、すぐに導入するのは難しい」という回答が多いとの結果があった。注目したいのはそのサブクエスションで、商流 EDI では「中小企業共通 EDI でやりとりできる取引先が少ない」との回答が最も多いのに対し、ZEDI では「関連する社内システムが未整備」との回答が最も多かった。このように原因が違っているところを検討いただくことが重要なポイントなのではないかと考えている。

2点目は、地域のコネクターハブ企業（中核企業）に働きかけると必然的に広がるのではないかと我々は単純に考えてしまうが、中核企業は既に先進的なものを導入し、独自のシステムを持っている。つまり、このままでは中核企業を中心としたクローズドな仕組みが出来てしまうことが懸念される。そうならないために、現状を踏まえてどのように普及していくことが可能であるかを検討いただきたい。

最後に、今回のアンケートはプラス IT フェアに来て頂いた IT への関心の高い方々の回答結果であり、むしろ、ここに来てくれなかった方々のほうが中小企業の実態を表しているのではないかと推測する。そうすると、フェアに来ていただけていない方々をいかに巻き込むかもこれからの EDI の拡がりにとっては課題になってくると思うのでそのような観点でも検討いただければと考えている。

○委員 B

今後の普及に向けては色々な方々が関わってくると思うので、事務局説明で普及調査部会は委員とモデルプロジェクトメンバーで構成されるとの話があったが、もう少し広い視野を取り入れるためにそれ以外のメンバーも迎え入れた方が良いのではないかと。

3. 審議事項

(1) モデルプロジェクト採択報告

※「資料2：第2回決済・商流情報連携（金融 EDI 連携）基盤整備委員会 進行資料」に基づき、事務局より説明。

[質疑応答/意見]

モデルプロジェクト審査会に関する質疑

○委員 C

4社の提案金額をそれぞれ紹介頂くことは可能か。4社の提案金額の合計が予算いっぱいであり、資料2 P.20にあるような理由で4社を採択したという理解で良いのか。

○事務局

正確な金額は開示していないので費用感として申し上げますと、1社辺り2,700万円程度のところ、4社ともほぼ満額が必要との提案があった。そのため、もう1社採択とするのはかなり厳しい状況であった。

○委員 C

先ほど普及展開数という話があったが、普及計画における普及展開数を踏まえた金額の妥当性の観点は審査観点に入っていたのか

○事務局

審査基準の加点要素にはなかったのですが、予算上限以内であればという基準を設けていたのみである。

○委員 D

本事業でモデルプロジェクトを4社に絞るにあたり、資料2 P.19に書面審査の考え方が書いてあるが、普及計画の概要をどのような観点で審査したのか。意図としては、今後は銀行界とベンダーが一緒になってこのような仕組みを普及していくことになると考えており、その際に銀行界としてお客様にどのようにご案内するのかという点で参考にしたい。

○事務局

事務局は採点していないので考え方を伝えるのみとなってしまいが、普及展開において体制面が大変重要になってくると考えている。そのため、既に地域の団体と交渉し、本事業含め一緒に普及展開していくという提案を頂いているプロジェクトは点数が高くなっているなど、一定の根拠をもって点数づけを頂いているのではないかと考えている。

モデルプロジェクトに関する意見

○委員 E

実証の実効性については疑いようがなく、確実に成功させてくれるだろうという印象を持っている。その上で一社ずつコメントさせて頂くと、株式会社イークラフトマンはPJ スコープおよび地域特性をしっかりと分析しており、どのようにアプローチするかシナリオが考えられていると感じた。

株式会社グローバルワイズは一步進んでいるイメージ。これまでに金融実証を一部実施している実績もあり、事業終了後の普及展開を進めてくれることを期待している。ただし、豊田地域と静岡地域の連携をどのように進めるのか具体的に分からない点は今後の検討事項であると思っている。

株式会社スマイルワークスは技術的に一步進んでおり、アプリケーションとして資金繰りまで繋げていくということもあり、かなりスマートなモデルプロジェクトになるのではないかと感じている。

株式会社ミライコミュニケーションネットワークは扱う商品が惣菜であるが、自社で構築してきたアプリケーションを本事業で拡大しようという形であるため期待している。

ただし、各社とも普及展開数をあげてもらっているがその根拠が見えにくいと感じたため、今後具体化が必要であると考えている。また、実証に参加するユーザ企業の事業計画とどう関係しているかについての分析が今回の加点項目に無かったのだが、4社ともそのような計画がなかった点は少し残念。

○岡田委員長

提案書類は濃淡差をかなり感じたというのが正直なところであるが、ヒアリングしてみると書類では分からなかった内容が分かるなど、期待が持てると思った。特に、株式会社グローバルワイズはひとつのプロジェクトの中で豊田商工会議所モデルと静岡 IoT 活用研究会モデルが含まれており、ヒアリング時にそれぞれが取引する取組みを考えているという話もあり、ここが大成功すると事例としてとても良いものになると考えているため、非常に重要なプロジェクトではないかと考えている。

株式会社イークラフトマンは、札幌市（大都市）ではなくなぜ当別町を選んだのかと思っていたが、ヒアリングの際にその理由を聞いて納得できた。ただし、普及展開に向けては本事業で大都市を対象としない中で進められるのかという点は少し気にしている。大都市と関係ある企業へ並行して働きかけを行い、普及展開するなど手を打って頂ければと思う。

全体的に、本事業を推進するだけでは提示頂いた計画通りの普及展開数の実現はなかなか難しいと思うので、実証検証を進めつつ、普及展開に向けた対策も進めなければならないと感じた。

○委員 F

提案書類については内容が分かりやすいもの、普及に向けた情熱が伝わるもの、書類だけでは判断が難しいものなど濃淡があったと感じた。一方でヒアリングでは、各社とも書類だけでは分からなかった工夫点などを理解でき、その結果として審査員の意見がまとまったため4社に最終的に絞られた。しかし、次点になったプロジェクトも非常に面白い内容であったため予算が許せばここも採用したかったと感じたため、今後でも取り組んで頂ければと考えている。

今後の進め方に関する意見

○委員 A

本事業は売掛金等の消込自動化により中小企業の生産性向上を目指していると理解しているが、消込業務はそう簡単ではなく、単純なアルゴリズムだけではカバーできないところもある。この辺りは今後各ベンダーが知恵を絞るところではないかと考えている。

○委員 E

本事業は電子決済等代行業（以下、電代業）の登録が必要となる可能性が高いと言われている。そのような意味では電代業という形で実証検証事業が進められるという画期的な事業であると思うので、電代業の枠組みも作っていくような事業になるのではないかと考えている。

○岡田委員長

電代業に関しては、どの程度の費用や工数が掛かるかも未確定であるという前提があり、各社にはヒアリング時に状況を聞いている。準備状況は各社様々であったが、まずは財務局に相談が必要である旨は情報として伝えている。

○委員 G

普及計画について普及展開数が掲げられているが、幹事法人であるベンダーの販売計画と関連すると思うので、各社がどのように進めていこうとしているのかを見守っていくことが必要ではないかと考えている。

○委員 B

幹事法人がアプリケーション・EDI サービスプロバイダーであるという関係上、普及展開数は幹事法人の事業計画であり、その上で幹事法人は個別にアプリケーションを提供する事業者等とコミュニケーションを取る必要があると考えている。このような体制の中で、具体的に誰が普及展開を推進していくのかを見ていく必要があり、そのためには各モデルプロジェクトと普及計画を一緒に作っていく必要があると考えている。

○委員 C

金融機関との連携については事務局と協議の上今後決定との話があったが、具体的にどのような進め方を考えているのか。またその対象は都市銀行だけなのか、地方銀行や信用金庫も含まれているのかご教示いただきたい。

○事務局

まず進め方としては、採択後速やかにユーザ企業がどのような金融機関を想定しているかについて情報収集し、その上で一般社団法人全国銀行協会・一般社団法人 全国銀行資金決済ネットワーク様と相談をしながら調整を進めていきたいと考えている。事前に希望先をヒアリングした情報では、都市銀行だけではなく地方銀行や信用金庫の名前も挙がってきている。

[審議]

審議頂いた結果、モデルプロジェクト審査会からの報告どおり「株式会社イークラフトマン」「株式会社スマイルワークス」「株式会社グローバルワイズ」「株式会社ミライコミュニケーションネットワーク」の4社を採択することで承認いただいた

4. 閉会

○事務局

本日はご多忙のところ、ご出席賜り誠にありがとうございました。次回につきましては、11月頃を予定しております。詳細決まり次第、開催案内をお送りいたしますので、ご出席のほどよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第2回決済・商流情報連携（金融 EDI 連携）基盤整備委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上